

# School Library 7月号

令和6年7月18日発行 担当：図書委員会1年生

こんにちは。1学期も終わりが近づき、そろそろ夏休みが始まりますね。

長い休みなので、たくさん予定があると思います。しかし、その中で読書は毎日の習慣として続けてみましょう。「継続は力なり」という言葉があります。これは何事も続けることが大切であり、それが力になるという意味です。毎日少しづつ本を読み続けることで、知識や読解力が身に付き、また集中力や記憶力向上のメリットがあります。

夏休みの間も、読書を通じて充実した時間を過ごしてください。  
(担当 1-A)



## 私と読書 先生

私が中学・高校生の頃の読書といえば、井上靖さんの『しろばんば』、『夏草冬濤』、『北の海』、『氷壁』、北杜夫さんの、どくとるマンボウシリーズの『どくとるマンボウ青春記』、『どくとるマンボウ航海記』、星新一さんの、ショートショート、ハミングウェイの『老人と海』、スタインベックの『怒りの葡萄』などでした。

社会人になってからは、たまたま本屋さんで目にとまった、宮城谷昌光さんの『晏子』という本を読んだのがきっかけとなりこれまで中国の古代の歴史について興味のなかった私が興味をもつようになりました。この『晏子』という作品は、強国晋を中心に大小いくつもの国が乱立した古代中国春秋期、齐の存亡の危機を救った晏子親子の波乱の生涯が描かれている作品です。この作品の他にも宮城谷さんの作品では、『管仲』、『子産』、『重耳』、『太公望』、『孟嘗君』、『公孫龍』、『奇貨居くべし』、『劉邦』、『三国志』など次々に読んでいきました。その中でも特に好きなのが、『樂毅』という作品です。樂毅は、はるか後の三国志で有名な諸葛亮孔明があこがれたといわれている中国古代屈指の名将です。今話題になっている『キングダム』にもつながっているので興味がある人はお薦めの本です。

他には、司馬遼太郎さんの、『項羽と劉邦』、北方謙三さんの『水滸伝』も好きな作品です。  
(担当: 1-A)



図書委員おすすめの本をPOPと一緒に館内展示しています。

## 私と読書

先生

「五分間のスピーチで本を一冊おススメしてください。」大学で司書の講義を受けていた私は、その言葉に驚きました。ビブリオバトルをまだできると思っていなかったからです。中学生の時大会に参加したのを思い出し、とても感慨深くなりました。そこで、中学生の時おススメした本と同じ作者の本を選び、私は講義での発表に臨みました。作品名は「スズメバチの黄色」。作者はブラットレー・ボンド、フィリップ・モーゼスという二人の外国人です。ビブリオバトルはコントや漫才と同じで、掘みが大事です。タイトル・作者・内容のどれが魅力的であっても、興味をもってもらわなければ意味がありません。中学生の時それで失敗した私は、リベンジも兼ねて、前に立ちこう切り出しました。

「みなさん、「NINJA」が世界的に人気な文化であるとご存じですか?世界から見た日本文化はSAMURAI、YAKUZA、など・・・日本本来の忍者やヤクザとは異なる、新しい概念を生み出します。それらはギャグではなく全く新しい世界観として舞台にした作品がこちら、「スズメバチの黄色」です。」作品名を挙げるまでに百二十文字ほどかかったスピーチは、読んでみたいと言ってくれる人を多く生み出してくれました。

夏休み明け、二年生は二回目のビブリオバトルをします。本をおススメするときは、ぜひ一言目から工夫してみてください。ぐっと興味をひかせてみましょう。  
(担当 1-C)

(担当 1-C)

## 図書委員がすすめる本

## テーマ 七夕



### 「日本の行事としきたり」 石田繁美 368円

私が紹介する本は、石田繁美さんの、「日本の行事としきたり」という本です。なぜかというと、私は七夕祭りと聞くと阿佐ヶ谷七夕祭りを思い出しますが、この本には、全国各地の七夕祭りが書かれており、各地の七夕祭りの違いや、七夕以外にも、年間の行事をこの1冊でくわしく知ることができますので、ぜひ読んでみてください。

(担当: 1-B)



### 「日本の祭り辞典」 芳賀日出男 386円

日本の85の祭りが入った辞典です、阿波踊りや花祭などの色々な祭りが載っています。その中でもおすすめなのは「市来の七夕踊り」です。太鼓をたたいて街をめぐり、その後を大きな振り子の虎が追うというものです。おすすめポイントは大きな虎！金色の目を輝かせ首をふりふりと走らせる姿はかっこよく、可愛いです！  
(担当: 1-B)

(担当: 1-B)



### 「世界でいちばん素敵なお夜空の教室」 多摩六都科学館天文チーム 440円

今回私が紹介する本は、七夕にちなんで、天の川やオーロラ、各季節での夜空の見どころについて説明している本です。私は普段星についての本はありませんが、この本は星に興味がなくても写真が多く絶景を見られるため面白く読めると思います。ぜひ読んでみてください。  
(担当: 1-C)